

イワサキタテハモドキというチョウが石垣島で発生し、バナナ公園まわりのオギノツメを食草として安定的に生息するようになった、という情報を、入野さんのホームページ「昆虫愛ランド in 石垣島」の昆虫観察日記（八重山編）で見て知ってはいたが、まさか実際に目にできるとは考えもせず、2015年2月、裏面の金色がとても美しいというミカドアゲハの早春型に会いたいという思いで石垣島に入る。

ミカドアゲハの発生時期のピークは過ぎていたようで個体数が少なく、川平公園で翅表の緑鱗粉がきれいなヤエヤマカラスアゲハが観察できて、こちらなら、とオモト林道で粘る。オモトでは名蔵ダムへと谷川がそそぐ上流部の荒れた公園地帯で蝶タイムを過ごし、昼食のために石垣市内へと戻る途中、バナナ公園の周回道路沿いのサンダンカ生け垣へと寄り道をすると、その赤い花にヤエヤマカラスアゲハやクロアゲハがやってくる。道路際の草地へと踏み込むとリュウキュウミスジやリュウキュウヒメジャノメが遊んでいたり、ヤエヤマイチモンジの♀が頭上の葉上で当方の動きを見張っているような挙動を見せたりする。

ブッシュから飛び出したリュウキュウヒメジャノメをビデオカメラで追っていたそのとき、小ぶりのカバタテハに似たタテハチョウの仲間がゆるやかな飛翔で現れて、道路沿いの土手斜面葉上にとまる。石垣島にカバタテハはいたっけ、と思いながら近づくと、なんと実物を初めて目にするイワサキタテハモドキだ。ゆっくりと翅の開閉を繰り返して、撮影記録をとる



にはカメラアングルがよくないが、驚かすとどこか撮影しづらいところに飛び去るかもしれないため、この記録が精いっぱい。それにしてもここまでサイズが小さいチョウだとは思わなかった。まさに百聞は一見に如かず。